

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

平成30年11月26日

鉦路市議会議長 渡辺 慶藏 様

会派名 新創クラブ

代表者名 畑中 優周



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	畑中 優周
出張先	長野県下諏訪町、石川県金沢市、富山県富山市
期間	平成30年11月19日 ～ 平成30年11月22日 (4日間)
用務	長野県下諏訪町～移住定住促進施策について 石川県金沢市～国際交流員について 富山県富山市～とやまこどもプラザについて
調査(研修)結果等の概要	別紙参照
備考	

注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

移住定住促進施策について

視察日：平成 30 年 11 月 20 日（火）

視察地：長野県下諏訪町

視察担当者：下諏訪町ミーミーセンタースメバ 小林 由香里氏 綿引 遥可氏

視察参加者：畑中 優周

中山道と甲州街道が交差する湯の宿場町として歴史的にも有名である。

日本のほぼ中央に位置する諏訪湖の北側にあり、山と湖に囲まれた可住地に約 2 万人が住むコンパクトシティーである。

歴史的な文化が残る一方で精密機械などのものづくり産業の集積を持ち移住者を昔から受け入れてきた開放的な風土と伝統がある地域である。

1911 年に商店街が開通された、御田町商店街は長い歴史を歩んできたが 2003 年には全体の 1/3 が空き店舗となった。

2002 年に「しもすわはってん 100 人委員会」が設立され、その中から「商店街活性化グループ」ができた。2005 年には活動の拡大に合わせ NPO 化され「言うだけではなくかたちにして見える化」が理解者の拡大を進めた。2011 年には空き店舗がゼロになり、2014 年には経済産業省の「がんばる商店街 30 選」に選ばれた。

2016 年までに延べ 35 件の開業をあり商店街の活性化に繋がり、青年部も設立された。

諏訪地方の主産業である精密機械などの「ものづくり」で長年培ってきた人材、手法を活用し地域資産の向上を目指す、商店街は「モノを売る場所」から「コトづくりの場所」、商店街でモノをつくり＝ここだけでしか手に入らない匠の町へと変貌をしている。

2017 年 2 月に御田町商店街内に町の住民と移住者、移住希望者が日常的に交流できる場所として移住交流拠点施設として下諏訪町ミーミーセンタースメバが開設された。

若者の移住者が多い理由については、長野県内は土地や賃貸物件が比較的高く、下諏訪町は安価であり住みやすさやなどロコミを基本としたネットワークづくり、良い仲間は良い仲間を呼んでくるなどの人と人を繋げる「ご縁の力」、みたまちおかみさん会（商店街の空き店舗の紹介や色々なお世話などしてくれる）などがヨソものを支える「存在の力」、元々持っている「地域の力」、第三者に伝える「デザインの力」である。

行政としては、住民意識の向上の観点から 2006 年度から「下諏訪力創造チャレンジ事業支援金」制度を設立し支援金は 1 つの支援事業に対して上限 100 万円で 3 年継続でき最高 300 万円となっている。

「行政は結果を急がず我慢することも大切」であり焦らず、じっくり取り組むことが大切であり、ゆっくりと下諏訪の町をつくって行くという発想である。

国際交流員について

視察日：平成 30 年 11 月 21 日（水）

視察地：石川県金沢市

視察担当者：金沢市都市政策局国際交流課交流戦略推進室長 真辺 淳氏

視察参加者：畑中 優周

平成 25 年 3 月に新たな都市像となる「世界の『交流拠点都市金沢』をめざして」を策定し翌 26 年 2 月に都市像を踏まえた今後 10 年間に取り組むべき施策を重点戦略計画として取りまとめた。

平成 27 年 3 月に金沢市国際交流戦略プランを重点戦略計画に合わせて平成 34 年度までの 8 か年計画として位置付け策定をしている。

このプラン策定にあたり国際交流を活性化させるための課題として、「海外における金沢の認知度を向上させること」、「海外からの来訪者が増加するようまちの魅力を高めること」、「これまでの実績を生かして海外との交流を発展させること」、「外国人住民や外国人観光客が滞在しやすい環境を整えること」、など 4 つに集約した。 これらを進めるにあたり、国際交流員の採用が強化されている。

初採用は 1990 年（平成 2 年）からで国の派遣制度を用いてニュージーランド国籍 1 名の採用経過としては国際交流活動の支援のため 1989 年に金沢国際交流財団の設置、9 か国 44 名の国際交流員を受け入れ、現在は 5 か国 5 名の採用、アメリカ、フランス、ベルギー、中国、韓国で金沢国際交流財団や金沢市国際交流課に配置されている。

非常勤職員として「語学指導等を行う外国青年招致事業」を通じての採用であり、金沢市において国際交流活動を行う外国青年としての就業規則を設置している。

待遇についてはとりまとめ団体（県）内で同一条件であり、報酬・住居手当の給付、勤務時間は週 35 時間、有給休暇、病気休暇、特別休暇などであり、任期は基本 1 年契約であるが本人と契約団体との意向が合致することで最大 5 年までの契約である。

海外姉妹都市との役割（交流の橋渡し、通訳、資料翻訳、企画運営補助、訪問団のアテンドなど）や母国への情報発信（庁内の FB チームでの情報発信、個人の SNS でも自主的に発信するなど）と学校（保育所、小中学校での国際理解講座の実施）市民（国際理解講座として語学研修の実施、シニアのための英会話講座の開催）市職員（消防局での短期英会話講座や職員へは外国語業務研修の実施）などへの事業も行っている。

外国人観光客の対応は行っていないが、インバウンド対策（文化施策が重点）への協力、情報発信などの支援等を業務として行っており、災害時の外国人観光客への情報提供（金沢市や観光協会での HP に多言語翻訳で掲載するなど）は行っている。

今後は、2015 年以降増加する外国人住民に対して災害対策の周知を行う予定である。

とやまこどもプラザについて

視察日：平成 30 年 11 月 21 日（水）

視察地：富山県富山市

視察担当者：富山市こども家庭部子育て支援センター 所長代理 崎田 晶子氏

富山市立図書館 読書推進係 主査司書 吉岡 真和氏

視察参加者：畑中 優周

平成 24 年にこども図書館と子育て支援センターを併せた「とやまこどもプラザ」及びとやま駅南図書館の複合施設が開設した（3 施設の複合）

とやまこどもプラザは子育て支援の拠点として両施設が連携しながら親子で本を楽しみ、子育てに関する相談や親同士の交流・情報交換を気軽に行える場となっている。

富山駅ビルの中にあり、買い物の合間や仕事帰りに気軽に立ち寄れる場所であり、広々とした館内は「おもちゃ箱をひっくり返したような」をデザインコンセプトで空間を創っており、図書館には絵本から最新の漫画まで取りそろえてある。

こども図書館（蔵書冊数約 1.9 万冊）

あかちゃん絵本コーナー、児童図書コーナー、まんがコーナー、育児書コーナー、ゲームコーナー、おはなしのへやなどがあり、広々とした空間になっており大人の目の高さからすべてが見える造りになっており土足禁止である。

本を読みながら寝転んだり自由に過ごせる場所を設けており、読み聞かせやおはなし会等を開催している。さらには体を動かして遊ぶゲームも体験できる。

子育て支援としては、こどもひろば、子育て相談（子育てホットステーション）、ことばの発達支援室、ファミリーサポートセンターが併設されている。乳幼児とその親やこれから親になろうとする人が気軽に集い子育ての悩みを相談でき、子育てに関するさまざまな情報が提供されている。

図書館は富山市内に 25 館ありその中でも駅前の利便性からも大いに利用されている。

小説や実用書など、さまざまなジャンルの本を揃えてあり、その中でもビジネス関連の図書・雑誌・新聞と、中高生向けの図書・雑誌の充実を特色としている。

平成 29 年度の利用状況

	入館者	日平均	貸出冊数
こども図書館	72,149 人	207 人	36,848 冊
とやま駅南図書館	91,033 人	262 人	54,369 冊
子育て支援センター	56,685 人	163 人	

視察所管

①移住定住促進施策について（長野県下諏訪町）

土地風土的にまちの人が「ソトモノ」を受け入れる体質がとても整っており、違和感なく接してくれている。「モノづくり」が好きな若者が口コミで集まりそれが広がり「コトづくり」に変化して行ったようである。長野県内は土地や賃貸物件が比較的高く、下諏訪町は安価であり住みやすさやなど移住する側にも違和感がないようである。まち自体がコンパクトで利便性が高く移住・定住者の気持ちも理解できる。鉦路市においては夏期の短期移住者の数も増えてきているが、阿寒や音別地区での移住・定住者獲得に体験型や短期ステイなど対策を進めるべきと感じた。

②国際交流員について（石川県金沢市）

鉦路市と共に観光立国ショーケースに選ばれており観光に対して施策が進んでいると感じた。

国際交流員については、外国人住民が平成30年度で5,066人と多く特に中国や韓国、ベトナムなどの留学生が多いという点である（大学・専門学校など）。海外姉妹都市との役割（交流の橋渡し、通訳、資料翻訳、企画運営補助、訪問団のアテンドなど）や母国への情報発信（庁内のFBチームでの情報発信、個人のSNSでも自主的に発信するなど）と学校（保育所、小中学校での国際理解講座の実施）市民（国際理解講座として語学研修の実施、シニアのための英会話講座の開催）市職員（消防局での短期英会話講座や職員へは外国語業務研修の実施）などへの事業も行っているがやはり情報の発信（FBやSNSなど）がキーワードであると感じた。鉦路市においても情報の発信力を如何に確保・強化（人的、口コミなど）すべきかが課題であると感じた。

③とやまこどもプラザ（富山県富山市）

富山駅前の商業ビル内に子育て支援施設とこども図書館、駅南図書館が複合された施設「とやまこどもプラザ」は、子どもが成長していくための読書を通じた学びや、遊び等による交流の場の提供、子育てや育児不安を解消するためのサポートなどを行っている。鉦路市においては地区別に3か所の支援拠点センターが整備されている。駅周辺の整備計画の中で商業施設との複合型も大いに検討するに値すると感じた。

下諏訪町



金沢市



富山市

